”農地・水・環境保全”
水土里のネットワーク通信

〈 第 14 号 〉
2008. 12. 1発行
島根県農地･水･環境保全協議会

『田んぼビオトープ』研修会を実施

～遊休農用地を活用した生息環境の提供～

室内研修（益田市会場）

本協議会が主催する『田んぼビオトープ』研修会を県内２会場で開催しました。

東部会場の研修会（31 活動組織・60 名参加）は、平成 20 年 11 月 2 日に松江市（室内研修）と安来市（現地研修）で開催し、西部会場の研修会（44 活動組織・102 名参加）は、11 月 22 日に益田市で開催しました。

両会場とも、午前は室内研修、午後は既に『田んぼビオトープ』を実践されている活動組織へ出向き現地研修を行う日程で、島根大学教育学部（自然環境教育講座）松本一郎准教授にご指導を頂きました。

室内研修では、様々なビオトープの形態があり、ビオトープの目的として、“住民の思いを共有化できるビオトープ”、“憩いの場としてのビオトープ”、“人々の情報交換や交流の場としてのビオトープ”、“環境に配慮したビオトープ” など、地域に適したビオトープづくりのポイントや “地域を守っていくこと”、“楽しみながら管理していくこと” など、『田んぼビオトープ』の管理のポイントを分かり易く説明して頂きました。

現地研修会では、地元の活動組織の代表者から『田んぼビオトープ』に取組んだ経緯についての説明の後、松本先生が現地の『田んぼビオトープ』について、詳しくアドバイスをされました。

また、質疑応答では活発な意見交換があり、自分達の地域と重ね合わせた実のある研修となったことと思います。

今後、遊休農地や耕作放棄地を利用して地域に従来から生息する田んぼや水路の動植物が保全される『田んぼビオトープ』が地域ぐるみの身近な活動になることを期待しています。

「茶屋ＥＳ」

「井戸農業農村保全の会」

「有田集落・環境を守る会」

活動事例紹介

斐川町 農地・水・環境保全協議会

宍道湖の西岸に位置する斐川町は太古の遺跡と神話の故郷、そして世界に羽ばたく先進技術産業が融合する、まさに未来と古代が響きあう町です。平成１９年度から始まった農地・水・環境保全向上対策の活動は斐川町全町が一つの活動組織という全国でも稀な保全協議会です。活動の対象となる資源は対象農用地 2,300.2ha、営農活動支援は 16 地区と広範囲です。昭和の初めから今日まで長い年月の土地改良で創造された農地、施設を農家だけでなく地域住民や世代を超えた交流を深めつつ、農村環境の向上を目指しています。

農地の保全活動

老若男女、仲良く共同作業！

斐伊川の恵みに感謝！

水の保全活動

環境の保全活動

次世代へ継承！

地域のみなさんの手で、自分たちの町や水路、農道、農地を守り次世代に継承していくこと・・。
　その意識を高め、よりよい農村を作りたいと思います。

農地・水・環境保全向上対策の活動の紹介や斐川町の話題も織り込んだブログを開設しています。運営は水土里ネット斐川です。
タイトル「みどりの風だより」です。
http://green.ap.teacup.com/hikatochi/
へ、アクセスしてください。

有機農業大学講座 in 島根・浜田を開催！！

１０月７日～８日、島根県立大学浜田キャンパスで、有機農業大学講座ｉｎ島根・浜田を開催しました。主催者は全国で有機農業の普及拡大に取り組む、ＮＰＯ法人有機農業技術会議（長野県）ですが、開催県として講座の企画、運営を行いました。

同会議は、県内外から約２００名もの参加があり、農地・水・環境保全向上対策に取り組む組織からも多くの参加がありましたので、概要を報告します。

☆１日目（１０月７日（火））

最初に有機農業技術会議の西村和雄代表の講演があり、有機農業は資材依存型の準有機農業と、低投与型の有機農業等に分類ができる、また、真に持続的な農業生産方式を実践していくことは、今や地球的な意義があり、懸命な取り組みが必要だと熱く語られました。

続いて堆肥・育土研究所の橋本力男所長から、堆肥づくりと土づくりについて、さらに、本県での有機農業先駆者である木次乳業有限会社の佐藤忠吉相談役から、長年の取り組みと現在の思いについて講演をいただきました。

その後、現地視察として、有機JAS認証を取得し有機野菜の共同出荷を行う若手生産者グループ、「いわみ地方有機野菜の会」の会員である三浦大輔氏のハウスを見学しました。３０代の若い農業者が、２６棟のハウスを使い、地元雇用を創出する企業的経営を実践している事例は、参加者に元気を与えるものでした。

☆２日目（１０月８日（水））

２日目の午前中は、本県の有機農業の取り組みについて事例報告が行われました。

まず、島根大学名誉教授の井口隆史先生から、島根県における有機農業の歴史の総括と今後の展望について体系的な講演が行われ、続いて、県農畜産振興課から県施策の概要紹介を行い、吉賀町（旧柿木村）の取り組みと、浜田市いわみ地方有機野菜の会の事例発表が行われました。

午後からは、「栽培技術」「販路」「新規参入」のテーマに分かれて分科会が行われ、各分科会ともに参加者と講師先生との間で非常に熱心な議論が展開され、本県の有機農業への取組者や取組志向者の意識の高さが伺えるものでした。

☆全体を通じて

２日間を通じて熱心な議論が行われ、大変に盛り上がりを見せ、本県の有機農業を初めとする「環境保全型農業」への生産者の意識が高まっていることの一端が伺えた講座となりました。

有機農業は、本対策の営農支援部分が進めている「人と環境にやさしい農業」の究極的な営農形態であります。県においても本年３月に「有機農業振興計画」を策定し、今後現場支援を強めていくことを示しています。環境保全型農業の取組の拡大と減農薬・減化学肥料栽培から有機農業へステップアップなど活動の質的な向上を目指してさらに取り組んでいきたいと思います。

現在　４７７組織 活動中！！　（共同活動は44.4%の取組）

市町村名	共同活動						営農活動(H20)		
	19年度採択組織		20年度新規地区		全体面積		取組品目		取組面積(ha)
	組織数	面積(ha)	組織数	面積(ha)	組織数	面積(ha)	水稲	その他	
松江市	20(22)	591	16	398	36(38)	989	3.6	0.6	4.2
安来市	39	1,314	5	115	44	1,429	－	－	－
東出雲町	8	337			8	337	－	8.2	8.2
雲南市	75	2,097	3	31	78	2,129	16.2	0.9	17.1
奥出雲町	9	2,619			9	2,619	109.8	33.5	143.3
飯南町	22	1,093			22	1,093	107.8	18.3	126.1
出雲市	60(61)	2,226	7	160	67(68)	2,386	35.9	25.0	60.9
斐川町	1	2,300			1	2,300	130.5	19.4	149.9
川本町	8	128	2	26	10	155	－	－	－
美郷町	35	357			35	357	8.5	0.4	8.9
邑南町	3	1,618			3	1,618	128.2	4.4	132.6
大田市	16	470	3	71	19	541	5.1	－	5.1
浜田市	18	1,050			18	1,050	88.1	26.7	114.8
江津市	21	410			21	410	17.3	1.2	18.5
益田市	35	864	2	26	37	890	42.9	113.0	155.9
津和野町	45	535	1	5	46	541	70.1	11.2	81.3
吉賀町	14	170			14	170	30.5	－	30.5
海士町	1	107			1	107	－	－	－
西ノ島町	1	338			1	338	－	－	－
知夫村	1	231			1	231	－	－	－
隠岐の島町	5	160	1	15	6	175	－	－	－
合計	437(440)	19,026	40	850	477(480)	19,877	795.2	262.7	1,057.9

※（　）は市町村をまたがる組織数　　※合計が合わないのは、数字のラウンド

～　編集後記　～

１１月に初雪、２０年ぶりだとのこと！気候も何かに苛立っているのか、穏やかな日本の四季とは思えぬ変動の激しさ！人々も何に苛立っているのか！キレる人の多さ！行方が定まらぬ政治…モラルハザードが叫ばれる大人社会！！養老孟司さんの著書にたとえ話として「都市が頭だとしたら、田舎は身体である。田舎がなければ都市は成り立たない云々…」とあった。森林荒廃、耕作放棄地が拡大する田舎で都市的生活に疲れた人たちの人間性を回復させる政策が出来れば、地域力を高める本対策との相乗効果で身体（＝田舎）が丈夫となるのだが！！

追伸：今年も　’09 版「日本の米カレンダー」を贈ります。「農の想い」とともに！！

～農地・水・環境保全向上対策に関することは！～

◆島根県農地・水・環境保全協議会まで

〔事務局〕水土里ネット島根　℡0852-32-4141　Fax0852-24-0848

http://www.shimanedoren.or.jp/arkadia/kai_set.htm

◆島根県農林水産部農村整備課資源保全スタッフ（共同活動）℡0852-22-6262

〃　農畜産振興課有機農業グループ（営農活動）℡0852-22-6477

http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/nougyo/kojo_taisaku/

◆又は県内各農林振興センター、最寄りの各市町村担当課までお問合せ下さい。